

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400325	事業の開始年月日	平成26年3月1日
		指定年月日	平成26年3月1日
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家 川崎多摩登戸		
所在地	(214-0014) 神奈川県川崎市多摩区登戸 302		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が明るく過ごして頂ける様な雰囲気づくりを常に心がけており、また地域に開かれた事業所運営を行っている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年12月22日	評価機関 評価決定日	平成28年5月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、最寄り駅のJR南武線中野島駅から徒歩約12分の住宅やマンションなどが立ち並ぶ地域にある。軽量鉄骨造2階建ての2ユニットのグループホームで、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。事業所は道路に面しているが車の通行が少なく閑静な場所である。近くにコンビニエンスストアなどがあって買い物に便利である。 【理念の実践と利用者主体の支援】 「地域と共に、明るく笑顔の毎日を」という理念は開設準備の時に管理者や職員が話し合って作成した。職員は理念に共感してサービスを行っている。利用者には、年長の家族に接するようにやさしく笑顔で話しかけ、相手の気持ちを和ませるように努めている。見学の際に、居室のドアを開け「ちょっと騒がしいねえ」と言ってきた利用者や、カートで食器を運ぶ役目の利用者が「カート、カート」と職員に催促する様子は、家族同士の会話のようで、日頃から思うことを自由に言える様子が伺えた。自立支援は、食事を乗せるプレートに食形態や嗜好、禁食などの情報を記載したカードを置き、自助具などを活用して自力で食べるように支援している。排泄介助では自室から歩行者を使って出てきた際に、すぐに寄り添って誘導し、ドアを閉めて外で待機して自力排泄を支援していた。 【職員の連携】 現場経験の豊富な管理者、日頃から職員と共に過ごし、現場の意見や提案などを話し合っている。管理者、計画担当者、職員はお互いにサポートし合い、チームでケアを行っている。現職職員は新人職員に対して介助の要領や注意点を伝え、ホームの状況や仕事に慣れてもらうように努めている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家 川崎多摩登戸
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の基に実施している。	「明るく笑顔で毎日を過ごす」という理念は、開設準備のときに管理者と職員が話し合って作成し、職員は理解し身につけている。新人にはOJT通して、理解してもらっている。職員の笑顔が利用者の笑顔を誘うという気持ちを持って、日々のサービスを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会などを通じ交流を行っている。	自治会に加入して、年2回の地域清掃活動に参加している。地域の川沿いで行われる「さくらまつり」にも参加している。開所当時は高校生のボランティアが来てくれていた。敬老の日には老人会からお茶が届いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、法人のエリア担当者などが参加して2か月ごとに開催している。事業所の活動状況報告と意見交換を行っている。参加者より地域行事への参加要請などがあった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	生活保護対象者について、川崎市・多摩福祉事務所職員が面談に来た際に相談をしたり情報交換をしている。運営推進会議議事録は法人を通して川崎市の担当者に提出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	事業所のユニット入り口に「身体拘束ゼロの推進」などを掲示している。「身体拘束防止委員会」や「虐待防止委員会」が組織され、研修や事例検討などを行っている。車椅子利用者は椅子に移乗するようにしているが、フロア入口は施錠しないが、玄関は家族の了承を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	徹底して努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会や一言通信にて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行っている。	年6回開催の家族会を中心に、面会時や電話連絡時に意見交換して希望や意向、苦情を聞いている。聞きとったことは申し送りノートなどに記録し職員間で共有している。外来受診に家族が対応できないとか散歩の機会を増やしてほしいなどの要望には、職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行っている。	管理者は、月1回の全体会議、随時開かれるユニット会議などで職員の意見や提案を聞きとる機会をつくり、できるだけ職員と共にサービスの現場で活動し意志の疎通を図っている。職員の提案で、利用者個々の状態に合わせて食形態を変更するなどサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本部と連携し努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	墓参りに家族が連れて行ったり、親族の忘年会に参加している方がいる。知人からの手紙・年賀状などのやり取りを支援している。以前利用していた施設の職員が訪ねてきたことがある。訪問者は、居室などに案内し湯茶でもてなしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があった場合には努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	行っている。	職員は、利用者とのコミュニケーションを大切に考え、常に寄り添って言葉や動作、表情から思いや意向を汲みとっている。寝たきりに近い利用者の意向を推察し、できること、やりたいことを把握して働きかけ、リビングで洗濯物をたたむなどの手伝いをするようになった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している。	ケアプランは、アセスメントや日頃の観察により利用者のニーズや課題を把握し、目標と具体的サービス内容を設定している。プランに沿って日々の介護の実施状況を記録し、3か月ごとにカンファレンスやモニタリングを行い、6か月ごとに見直している。状態の急変があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている。	協力内科医の利用者全員と個別の往診は月1回ずつ実施している。内科以外の診療は、家族対応であるが職員が同行する場合もある。診療情報提供表やサマリーなどで診療情報を把握している。訪問看護は週1回で健康管理などを行っている。歯科医と歯科衛生士が毎週交互に来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	医療連携や看取り介護を行っていて、往診医は24時間オンコールで対応できる。現在終末期の利用者がおり、家族、医師、管理者で話し合った。家族の意向は看取り介護ではなく、可能な限り自室で暮らしてほしいと言われたので、医師、看護師、管理者、職員が連携して支援を実施している。	利用者の重度化に備え、医療関係者による看取り介護の際の心構えや基本的注意事項について、職員研修を行うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。	防災訓練は年2回実施している。利用者も参加して火災時の避難誘導訓練を行っている。来年2月には夜間想定訓練を行う予定である。災害備蓄は約3日分の飲料水、食料を備蓄している。	備蓄リストを作成して、現在の備蓄に保温シートやカセットコンロなどを加えることを期待します。また、運営推進会議などで呼びかけて近隣住民との防災ネットワークづくりにも期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている。	利用者のプライバシーに関することを家族に話す際は、他の利用者や外来者に聞かれないよう居室を使用している。トイレ誘導や介助の場合、羞恥心に配慮してさりげなく行っている。個人情報を含む書類などは、事務所内の鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。	食事のメニューと食材は専門業者が配達し、調理は1階の厨房で専門職員が行っている。冬至のカボチャ料理など季節のものを提供していた。利用者は配膳やカートを使った食器の運搬などを手伝っていた。土用丑の日はウナギ、ひな祭りはちらし寿司などの出前を頼み、みんなで楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている。	職員は、利用者ごとの排泄パターンを確認してトイレ誘導し、自力排泄をサポートしている。失禁があった場合は、さりげなくトイレや浴室に誘導して対応している。夜間は、睡眠を優先する方、時間を決めて定期的にパット交換をする方など、それぞれの様子を見守りながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行っている。	浴槽は、各人が入浴するごとに湯を入れ替えて掃除している。入浴回数は週2回とし、時間や回数は希望により対応している。入浴を好まない方は、無理強いをせず時間をずらすなど柔軟に対応している。同性介助は希望に応じている。柚子湯などで季節感を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行っている。	天候が許すかぎり、外出を希望する利用者の散歩を支援している。車椅子の方にも対応している。事業所周辺や近隣にある「二ヶ領用水遊歩道」に出かけている。利用者は遊歩道で行われる「さくらまつり」の見物の際に、屋台で食べるのを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	共有部分はバリアフリーで、ユニット内は全体が見渡せるようなレイアウトになっている。リビングは明るく、クリスマスの飾り付けなど季節の飾りがある。1階リビングには職員が画いた1階利用者全員の似顔絵がかかっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	居室の常備品は、空調、照明、収納設備、カーテン、ベッド、整理ダンスで、テレビ、家族や友人の写真、ぬいぐるみなどが飾ってある。清掃や整理整頓は職員が支援していて、居室入り口には、それぞれ異なった花を描いた木製の表札がかかっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている。		